

愛媛果研ニュース

No.36 平成30年10月



愛媛県イメージアップキャラクター
みきやん

温州みかんの高品質果実連年生産実証試験

6月14日から始まったサッカーロシアワールドカップも7月15日のフランス対クロアチアの決勝戦でフランスが2回目の優勝で幕を閉じました。日本の成績は、大会直前の監督交代にもかかわらず2大会ぶりの決勝トーナメントに進出して優秀な成績を残し、日本中が沸きかえったところです。来年はラグビーワールドカップ、再来年はオリンピック・パラリンピックが日本で開催され、優秀な成績を収めて日本を元気にしていただけることを期待します。

近年の地球温暖化による気候変動は、気象災害の頻発化、果実品質の低下、病害の多発など、様々な影響を及ぼしています。そんな中、7月6日からの梅雨前線等に伴う大雨（西日本豪雨）は本県の果樹産地にも深い爪痕を残しました。特に南予地方を中心に、東予・中予の島しょ部・山間部等の広範囲で、園地や農道の崩落、園地やハウスへの土砂流入やかん水施設・モノレールの大規模破損など、生産基盤を揺るがす深刻な被害が発生しました。また、みかん研究所も大規模な土砂災害に見舞われ、研究ほ場や研究施設に大きな被害がでております。現在、被災地では懸命な復旧作業が続いておりますが、完全復旧にはかなりの年月を要するものと思われます。愛媛県としては、かんきつ産地の再生を目指し、各種支援策を打ち出して全力で取り組んでいるところですが、これを機に災害に強い生産基盤づくりができればと願っているところです。

さて、果樹研究センターにおいては、新品種の開発、栽培や貯蔵技術の開発、病虫害防除対策等の試験研究に鋭意取り組んでいます。今回は①かんきつ有望系統‘愛媛48号’の概要と特性について、②マルチ・点滴かん水同時施肥技術による‘はれひめ’の樹体管理、③キウイフルーツかいよう病の防除対策を取り上げましたので、儲かる農業の一助となることを願っています。